

外国語授業を支援するグループウェアの開発

0 2 T A 6 1 9 F X

吉成 雄一郎

論文概要

本稿のテーマである「教育用グループウェア」の研究と開発は筆者が信州大学の IT 大学院に入学した 2002 年 4 月に始まる。筆者は、英語教員として東京電機大学に勤務している社会人学生である。筆者が信州大学の IT 大学院で情報工学を学ぼうと考えたきっかけは、英語教育でコンピュータやネットワーク活用する方法を模索するためであった。大学での英語教育でコンピュータをりようするには、どのようなシステムが必要かをまず洗い出した。すでに、CALL (Computer-Assisted Language Learning) や WBT (Web-based Training) 等の既存のシステムを吟味してその問題点を抽出した。次に、英語教員としての経験などを踏まえて、どのようなシステムが望ましいかを考え、構想を練った。その結果、学生、教員とも使いやすく、また統一したプラットフォームが必要であること、ネットワークを利用することで、教育活動は教室に限定されることなく、ネットワーク環境があるすべての環境で利用できるものであることなどを主な設計方針とした。詳しい機能については、本文に譲るが、たとえば自動出席管理やグループ/ペアチャットなどの機能は、今までのシステムにはない独自の発想のものである。この種のシステムは実用的でなければ意味がない。2004 年 1 月現在、この教育用グループウェアは東京電機大学で試験的に使われているだけでなく、外国語教育メディア学会 (The Japan Association for Language Education and Technology) の会員に無償で提供されている。現在は試験運用的な色彩が濃いだが、2004 年度中には、Version 2 に進化させて、システムのホスティングを LET から出版社の株式会社成美堂に移行し、本格的に運用することになった。

また、筆者は本グループウェアの開発と同時に Web 英語学習システムの構築と運用を 2000 年から行っており、現在、工学部の基礎英語教育の一環として全 1、2 年生で実施している。元々、グループウェアとは独立して進化してきた Web 学習システムであるが、今後この 2 つを統合しようと考えている。Web 学習システムは、単に問題をシーケンシャルに提示するのではなく、スパイラル方式を採用し、さらに問題の提示方法には学習者の修得度や能力に応じて問題の提示の仕方を変えるなど工夫を施している。本論の最後に統合する Web 英語学習システムについても述べることにする。